

優良賞

助け合いの中で生きる私たち

真鶴町立真鶴中学校二年 青木 万莉

私たちは毎日の生活を、当たり前のように過ごしています。しかし、その「当たり前」は、多くの人の支えや助け合いによって成り立っているということに、ふとした瞬間に気付かされます。朝、家族が用意してくれる食事をいただくことや、学校で友達と声を掛け合いながら学ぶこと、地域の方々が見守ってくださる道を安心して歩けること。その一つひとつが、誰かの「助けたい」という思いから成り立っているのだと感じます。

私は以前、助け合いというものは特別な出来事の中だけで生まれるものだと思っていました。例えば、災害の時に力を合わせることや、大きなトラブルが起きた時に誰かを助けることなどの場面でだけ必要になるものだと考えていたのです。しかし、周りをよく見て見ると、助け合いはもっと日常的で、いつも私たちのそばにあるものだと思いました。

学校で友達が落とした教科書を拾うちよつとした行動や、重い荷物を持っている人に声を掛けようとする優しさ、道で困っている高齢の方に手を差し伸べる人。そうした行動は決して目立つものではありませんが、人と人が関わりながら生きているからこそ自然に生まれてくる物です。誰かに褒められるためでも、見返りを求めているわけでもありません。ただ目の前の人を思う気持ちによって起こる行動こそ、助け合いの姿なのだと思います。

「福祉」という言葉には、「幸せ」という意味があると言われています。では、幸せとは何でしょうか。便利さや物が豊かであることだけが幸せではありません。私は、人の温かさを感じられる瞬間こそが、本当の幸せに近いものだと思います。

助け合いがある社会では、誰もが安心して暮らすことができます。自分が困った時には助けてもらい、余裕がある時には自然と誰かを助ける。このような助け合いが、福祉の考え方につながっているのだと気付きました。

私にも、助けられて救われたことがあります。学校のことで悩んでいた時、友達が、

「大丈夫？」

と声をかけてくれました。たったそれだけなのに、気持ちがふつと軽くなりました。誰かが自分のことを気にしてくれるだけで、こんなにも心が安心するのだと知りました。

社会全体を見ても、助け合いはさまざまな形で行われています。高齢者を見守る地域の活動、障がいのある方が安心して過ごせるための仕組み。こうした社会の支えは、一人では生きていけない私たちを支えてくれる大切な存在です。困っている人がいれば、

「大丈夫ですか。」

と声を掛け、必要な時にそつと手を差し伸べる社会。それが福祉の理想であり、それは私たちの日常の中にあると感じます。

私は、こうした助け合いの大切さを忘れずにいたいと思います。私たちは一人で生きているように見えて、実は多くの人に支えられています。だからこそ、今度は私自身が誰かの支えになれるような行動をしていきたいなと思います。小さなことでも大丈夫です。困っている人に声をかけたり、友達の悩みを聞いたり、周りへの小さな気配りを大切にすること。それらの積み重ねが、誰かの心を温め、社会全体を優しいものにしていくのだと信じています。

私たち一人ひとりが持っている、ささやかな優しさが集まった時、社会はきつともっと温かく、安心できる場所になるでしょう。私はこれからも、日常の中で誰かに手を差し伸べられる人でありたいと思います。そして、これまで自分が受け取っ

てきた温かさを、次の誰かへつないでいけるような存在になりたいと感じています。